

Visualizing Cultures 序文

1. **Visualizing Cultures** は様々な時代と場所において広範囲で回覧された画像を通して歴史を考察するひとつのgatewayです。

学者として我々は、この方法を通して、人間がいかにかに自己を観察し、外国人、敵を含めた他者を観察し、そして、逆に他者が自分たちをどのように観察したかについて、さらに深い理解を得るための歴史的研究を行っています。

2 **Visualizing Cultures** はこのサイトの視聴者（特に学者、教師、学生）が、従来手に入らなかった視覚教材に即座にアクセスができるようにすること、それと共に、注意深い分析、使用法についての指導法を提供することを目的に作られています。

この目的を達成するために、各トピックには、膨大なデータベース、文献、長い教案が付記されています（まだつけられていないものについては現在開発中）。ビデオ（インタビューを含む）は、補足的にいくつかの提示物や分析に加えられています。画像はすべて拡大でき、詳細に精査することができます。また、教育目的のプロジェクトに使用するためにダウンロードできます。

3 **Visualizing Cultures**は「芸術鑑賞」のためのプロジェクトではありません。

それとは逆に、これらのユニットは視聴者にそれぞれの画像を注意深く観察し、論評するように促しています。そのため、各トピックのユニットの視覚画像には、Core Exhibit と称する詳細な説明文を加えています。

4. 歴史そのものが残虐である故に、残虐な画像もあります。

画像には、美学的に魅力があったり、娯乐的であったり、あるいは写真のように「現実味のあるもの」であったりするものもあれば、残酷、残虐かつ侮蔑的なものもあります。**Visualizing Cultures** の目的は、人々が自分たちの時代を表し検分した様々な方法を、より正確に直接に味わう感覚を得ることです。それを念頭においてください。

5. 歴史の暗い面を映し出すグラフィック（暴力、偏見的思想、人種差別、強度の国家主義、戦争と残虐行為、他人や環境に対する冒瀆など）は検閲なしで載せられています。

我々はこのような残酷な画像に直接向き合い、注意深く観察し、解釈するよう努めるべきです。もし我々がよりよい世界を作ろうと願うのであれば。

6. 2006年現在、**Visualizing Cultures**は、考えうる限りでの広義での「文化」において新しい見識を得るためのケーススタディとして、19世紀半ば以降の日本を使用しています。（「文化」の例としては、西洋化、近代化、テクノロジー及びマスコミの形態変化、帝国主義、国家主義、軍国主義、人種差別、商業（営利）化、消費者運動などが挙げられます。）

構想中のユニットにおいては、19世紀末から20世紀初頭にかけてのアジア各地における写真、第二次世界大戦以前の日本の近代化、そして、様々な敵対者の観点から見た、及びプロパガンダを通して見た、1930年代から40年代初頭のアジア太平洋戦争（中国も含む）を扱う予定です。“Visualizing Japan”のユニットはジョン・ダワーが記述し、テクノロジー、教育学的側面は宮川繁の指導により開発されたものです。

7. これらの**Visualizing Cultures**のユニットは十分ご注意の上、且つ制作者の意図を汲んだ上で閲覧、御使用ください。

我々の目的は、過去を理解することで現在、未来の世界をよりよい場所にすることです。この目的のためには、画像を提示されたコンテキストで検分することが重要になります。画像をコンテキストから取り外し、無責任に且つ挑発的に使用すると、せっかくテクノロジーの発達により可能になった非検閲でのシェア及びコミュニケーションという理想を崩壊させることになってしまいます。過去のイメージ画像を暴力や憎悪の念を永続化させるために使用することは、**Visualizing Cultures**の本来の意図に完全に反するものであります。